

平成 29 年度事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

当協会は、平成 29 年 5 月 11 日(木)開催の第 5 回定時総会において、施工管理事業、品質管理事業、広報事業を骨格とする平成 29 年度の事業計画と約 7,200 万円(断熱特別会計を含む)の予算を決定し、これに基づき以下の事業を実施したので報告する。

平成 29 年度は、木造建築物(集成材)における折板接合部の検討、大型送風散水試験装置を使用した外壁材の水密性試験の実施、平板ぶき屋根の耐火構造における垂木の耐火被覆に関する検討などを行うほか、新たな屋根 30 分耐火構造認定取得に向けた作業を進めた。引き続き金属屋根・外壁に関連する各種技術情報を積極的に公開した。

1. 組織運営

(1) 会議

事業計画の円滑な執行を図るため、次の会議並びに委員会を運営した。

表 1 会議・委員会

会議・委員会	所管事項
正副会長会議	事業及び予算執行に関する事項
審査委員会	技術審査の問題作成、可否の判定に関する事項
技術委員会	技術の向上及び技術サービスに関する事項
広報委員会	広報及び機関誌・ホームページに関する事項

表 2 会議・委員会開催経過

総会	第 5 回:5 月 11 日
理事会	第 12 回:5 月 11 日
賀詞交歓会	1 月 17 日
正副会長会議	4 月 24 日、7 月 24 日、10 月 25 日、12 月 20 日、3 月 8 日
審査委員会	1 月 23 日、
技術委員会	4 月 3 日、5 月 22 日、6 月 19 日、7 月 18 日、8 月 29 日、9 月 25 日、10 月 24 日、 10 月 27 日～28 日、11 月 20 日、12 月 18 日、1 月 23 日、2 月 19 日、3 月 27 日
広報委員会	4 月 6 日、5 月 9 日、6 月 5 日、7 月 12 日、9 月 12 日、10 月 12 日、11 月 10 日 12 月 4 日、1 月 12 日、2 月 6 日、3 月 12 日

(2) 会員の異動状況

平成 30 年 3 月末における会員の異動状況は次の通りである。

表 3 会員移動状況

会員区分	期 首	増加数	減少数	3 月末
正 会 員	254	5	6	253
特別正会員	107	1	2	106
特 別 会 員	10			10
賛 助 会 員	32	2		34
合 計	403	8	8	403

(3) 役員補選

第 5 回定時総会で役員補選を行った。理事の退任・新任は表 4 の通り。

表 4 退任・新任 理事・監事

	退 任		新 任	
理事	上 山 利 彦	(有)上山板金工業所	川崎 将弘	川崎板金工業(株)
	関 野 高 史	(株)セキノ興産 専務取締役	黒石 厚	NSSB 奥平スチール(株)
	立 花 徳 也	NSSB 奥平スチール(株)	黒澤 武志	黒澤鋳金(株)
	古 澤 完 三	(株)エフ・ケイ工業	佐々木 季則	(有)ササキ板金
			山口 輝雄	(株)セキノ興産

2. 安全対策事業

(1) 安全対策

機関誌に以下の安全関連記事を掲載した。

* 6 月号:建設工事従事者の安全及び健康の確保の推進に関する法律

* 7・8 月号:熱中症対策

3. 調査研究事業

(1) 社会保険加入促進に関する周知活動の実施

社会保険の加入促進に向け、会員企業等からの問い合わせに対応した。

(2) 若年労働者育成に関する調査等

中央職業能力開発協会への中央技能検定委員の派遣

建築板金(内外装鋳金作業)の中央技能検定員として宮腰技術委員長、工藤技術主幹を派遣した。

(3) 内外装板金・外国人研修生制度への対応

厚生労働省における外国人研修生の受け入れの前提となる「公的スキル評価制度」の創設について協力した。内外装板金作業の技能検定基準等の検討・作成に専門調査員・技能検定員を派遣した。

技能実習 2 号移行対象職種の建築板金に内外装板金作業が追加された(5 月 22 日・官報公示)。

(4) 海外情勢の調査

2月25日(日)～3月4日(日)の日程でベルギー・ブリュッセルにて開催された Batibouw2018 ほかを視察、参加者11名で実施した。

(5) 中国防災鉄鋼技術普及展開事業への協力

中国の粗鋼生産能力削減にたいする支援事業(鉄鋼業の構造改革、鋼構造普及/経済産業省・金属課、海外産業人材育成協会(AOTS)、日本鋼構造協会)の一環として金属屋根・外壁材に関する説明を担当した。

- ・第1回:7月19日@AOTS、中国鋼構造協会主要メンバー(宮腰技術委員長)
- ・第2回:9月12日@AOTS、若手エンジニア(宮腰技術委員長)
- ・第3回:1月16日～1月20日@北京&昆明、政策担当者・発注者・設計者等(工藤技術主幹)

(6) 金属屋根等に関する統計調査の実施

平成27年度における金属屋根、粘土瓦、厚形スレート、化粧スレート、波形スレートの出荷量、並びに金属屋根・外壁素材の出荷量に関する調査結果をホームページで公開した。

表5 各種屋根材の出荷動向・面積比較(単位:千㎡)

年度	金属	セメント瓦	波形スレート	粘土瓦	化粧スレート	合計	金属比率
2000	72,603	9,713	10,200	76,218	31,234	199,968	36.3%
2001	71,261	8,317	8,230	72,046	28,161	188,015	37.9%
2002	66,920	7,562	7,088	69,844	24,110	175,524	38.1%
2003	67,125	7,530	6,718	68,280	25,748	175,401	38.3%
2004	70,142	4,999	7,332	58,892	22,183	163,548	42.9%
2005	82,881	7,149	5,646	57,353	22,711	175,740	47.2%
2006	83,573	6,395	4,698	55,521	20,465	170,652	49.0%
2007	69,836	4,136	3,890	44,372	18,788	141,022	49.5%
2008	54,661	1,941	3,061	38,957	17,078	115,698	47.2%
2009	44,687	2,148	2,176	38,186	15,525	102,722	43.5%
2010	48,663	2,137	2,281	32,588	16,202	101,871	47.8%
2011	51,774	956	2,252	34,123	16,713	105,818	48.9%
2012	55,135	1,125	2,136	33,572	16,975	108,943	50.6%
2013	57,918	1,039	1,716	31,197	17,582	109,452	52.9%
2014	64,009	734	1,586	28,413	16,799	111,541	57.4%
2015	55,468	548	1,684	24,798	15,844	98,342	56.4%
2016	66,309		1,506		16,197		

* 金属屋根材、波形スレート、粘土瓦の面積は換算値。換算値は当協会の推計。

(7) スレート屋根改修問題に関する調査研究

発注サイドを中心にスレート屋根改修の問い合わせが増加しているため、『スレート屋根改修のご提案/老朽化したスレート屋根を安全に美しく改修します』を増刷し、金属屋根工事技士更新講習会で配布した。

4. 審査事業

(1) 金属屋根工事技士技術審査

平成 29 年 12 月 2 日(土)に札幌、仙台、東京、大阪、福岡の 5 会場で実施した。62 名が合格した。合格率は 86.1%。

表 6 金属屋根工事技士技術審査

地区	会場	申込者数	受験者数	合格者数・率(%)	
札幌	自治労会館	1	1	1	100.0
仙台	建設会館	5	5	4	80.0
東京	鉄鋼会館	35	34	27	79.4
大阪	科学技術センター	29	28	27	96.4
福岡	朝日ビル	4	4	3	75.0
合計		74	72	62	86.1

5. 施工管理事業

(1) 金属屋根工事技士「更新講習会」の実施

金属屋根工事技士の資格更新を目的とした講習会を 6 会場での実施を予定する。講習会は、「金属屋根講座」として資格者以外にも公開した。

講習は、『初めて学ぶ もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017』を中心に行い、木造建築物における折板接合部の確認試験と一文字ぶき屋根の耐風圧性試験について解説するほか、本年 1 月に改定された積雪荷重の算定方法についても説明を行った。講師は技術委員が担当した。開催経過は下表の通り。

表 7 金属屋根工事技士更新講習会

開催日	地区・会場	対象	申込			出席			講師	
			更新	講座	小計	更新	講座	小計		
2月17日(土)	仙台・宮城県建設会館	22	14	11	25	14	11	25	名和手	湯本
2月24日(土)	札幌・札幌市教育会館	27	23	17	40	19	15	34	湯本	鈴木
3月3日(土)	東京・家の光会館	91	101	33	134	97	33	130	宮腰	大室
3月10日(土)	福岡・朝日ビルディング	14	13	15	28	12	13	25	名和手	風間
3月17日(土)	名古屋・ウインク愛知	58	37	19	56	37	18	55	大室	鈴木
3月25日(土)	大阪・科学技術センター	84	77	17	94	76	17	93	宮腰	風間
		296	265	112	377	255	107	362		

テキスト&配布資料

LLM2017

屋根を調べる 2018

29 年度講習会説明資料

スレート改修パンフレット

質問用紙

新しい積雪荷重の算定方法について 一文字葺きの耐力試験
木造建築物における折板接合部の確認試験

6. 品質管理事業

(1) 国交省・国土技術政策総合研究所の木質混構造総プロでの折板接合部の検討

国土交通省国土技術政策総合研究所が実施するプロジェクト研究「新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発」(H29年度～H33年度)の一環として、平成29年度より「集成材と折板構成材との接合部に関する載荷試験業務」において、木造躯体における折板屋根接合部の検討を実施している。WG委員は風間技術委員、オブザーバーとして宮腰技術委員長、事務局・濱野。平成30年度においても引き続き検討をつづける。

- # 第1回準備会:5月26日(金) 10:00～12:00@日本集成材工業協同組合
- # 第2回準備会:6月30日(金) 10:00～12:00@日本金属屋根協会
- # 第3回準備会:7月26日(水) 10:00～12:00@日本鋼構造協会
- # 業務打合せ:11月1日(水)10:00～12:00@建材試験センター
- # 業務打合せ:11月8日(水)10:00～12:00@日本金属屋根協会
- # 第1回折板接合部検討WG:12月6日(水)10:00～12:00@建材試験センター
- # 試験体組み立て:12月19日(火)9:30～@建材試験センター
- # 試験:12月21日(木)～28日(水)@建材試験センター(予定)
- # 第2回折板接合部検討WG:1月31日(水)16:00～@建材試験センター

(2) 大型送風散水試験装置を使用した外壁材の水密性試験の実施

技術委員会では、建材試験センターが今年度導入した大型送風散水試験装置を使って外壁材(角波)の試験を実施し、角波の水密性について散水装置と従来の圧力箱装置で試験を実施し、性状の違い等を確認した。試験結果については、機関誌に公表の予定。

- # 試験体組み立て:1月10日(水)@三生技研
- # 試験:1月25日(木)～26日(金)@建材試験センター

(3) 『初めて学ぶ もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017』、『鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSR2014』、『鋼板製外壁構法標準 SSW2011』並びに『鋼板製屋根構法標準 SSR2007』の普及

講習会等で寄せられた LLM2017 への質問とその回答を機関誌に公表した。また、正誤表を機関誌、ホームページに掲載した。

MSR2014 が品切れとなったので、昨年6月に増刷を行った。

(4) 計算ソフト『屋根を調べる 2018』の作成

『屋根を調べる 2018』を作成した。

本計算ソフトには以下のものが含まれている。

風圧力算定ソフト 積雪荷重算定ソフト 屋根性能計算ソフト 工事管理報告書作成ソフト
風圧力関連規定解説書(PDF) 屋根ふき材の構造計算解説書(PDF)

屋根性能計算ソフトでは、以下の計算を行うことが出来る。

表 8 屋根性能計算ソフト内容

耐風強度計算	耐積雪強度計算	性能確認計算
折板強度(連続梁)	折板強度(連続梁)	熱貫流率計算
折板強度(単純梁)	折板強度(単純梁)	断熱性能計算(日射吸収)
折板強度(軒先)	折板強度(軒先)	断熱性能計算(放射冷却)
接合部材・接合部耐風強度	接合部材積雪強度	結露計算
タイトフレーム溶接強度	雪止め金具取付間隔	室内温度上昇計算
パラペット下地強度	母屋・垂木強度	屋根材の熱伸縮量計算
雨とい取付金具強度	野地板強度	透過損失計算
母屋・垂木強度		騒音伝達計算
野地板強度		といの排水量計算
ファスナー取付強度		軒先流層高さ計算
横葺き吊子の引抜強度		
縦葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		
横葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		

(5) 金属屋根に関する技術情報の提供

会員内外を含めて、金属屋根・外壁の設計・施工にかかわる問合せが増加していることなどに対応するため、機関誌並びにホームページに以下の事項を掲載した。

機関誌公表分

- * 2 種類の屋根耐火 30 分耐火構造認定を取得
- * 定尺縦継/折板の改修工法について
- * 金属折板屋根における裏貼り断熱材の復旧
- * LLM2017 への質問とその回答
- * 建材用高耐久性クロメートフリーカラー鋼板
- * 金属サイディングを正しく取り扱うためには
- * 伸銅品を学ぶ(上) (下)
- * 積雪荷重の算定方法が変わります
- * 積雪荷重の算定方法に関する「技術的助言」
- * 亜鉛系めっき鋼板、塗装鋼板のクロメートフリー動向

ホームページ公表分

- * 建材用塗装 / 亜鉛系めっき鋼板の接触腐食
- * 平板ぶき屋根の野地板直留め構法確認試験
- * 留め付けねじの端あき強度試験
- * 木造建築物における折板接合部の確認試験
- * 定尺縦継/折板の改修工法について
- * 金属折板屋根における裏貼り断熱材の復旧
- * 積雪荷重の算定方法が変わります
- * 鋼板「一文字ぶき」動風圧試験試験結果報告

(6) 『建築工事標準仕様書』改定への対応

国交省の『公共建築工事標準仕様書・平成 31 年度版』の改定作業が始まり、技術委員会が対応した。

(7) 国交省・国土総合技術政策総合研究所の「木造住宅の耐久性向上に関わる建物外皮の構造・仕様とその評価に関する共同研究」への参加

本共同研究では、戸建ての木造住宅を対象として、各種の劣化要因を調査・研究し、耐久性を確保するため、建物外皮(屋根、外壁、バルコニー等)の設計・施工方法を示すとともに、各種の構法や材料・部材に対する評価方法を提案することを目的としている。

(8) 日本建築学会『屋根工事標準仕様書 JASS12』改定への対応

(一社)日本建築学会の「屋根工事標準仕様書 JASS12」が約 10 年ぶりに改定されることになり、その作業に技術委員会が対応した。

(9) 平板ぶき屋根の耐火構造における垂木の耐火被覆に関する検討

横葺き屋根等野地板を使用する屋根での耐火構造においては、垂木をケイ酸カルシウム板で耐火被覆する仕様が一般的であるが、他の被覆材料を使用したい等の要望があり、国交省の建築基準整備促進事業の「F10、不燃材料等に関する大臣認定仕様の基準化の検討」(防火材料・防耐火構造等 WG)で検討を行った。検討作業は、平成 30 年度も継続する。

(10) UR 都市機構の屋根仕様書の検討

UR 都市機構から屋根改修仕様書の内容検討依頼があり、技術委員会で協議の上、回答した。

(11) 技術委員会・技術分科会 合同研修会の実施

技術委員会・技術分科会の合同研修会を以下のとおり実施した。

#平成 29 年 10 月 27 日(金)～10 月 28 日(土)

#齋藤木材工業(長野県小県郡長和町/集成材の製造業者)の工場視察と意見交換

7. 断熱事業

(1) 運営

事業の円滑な執行を図るため、断熱亜鉛鉄板委員会内部に幹事会、技術分科会を設け活動を行っている。幹事会、分科会等の開催経過は、以下の通り。

表 9 幹事会・分科会等の開催状況

	総会	幹事会	分科会	説明会、工場審査
4 月	19 日		25 日	
5 月			25 日	20-21 日
6 月		22 日	28 日	2 日、9 日、16 日、23 日、30 日
7 月			26 日	7 日、21 日
8 月		24 日	23 日	4-5 日
9 月			26 日	
10 月		19 日	12 日	3 日、5 日、11 日、13 日、17 - 18 日、31 日
11 月		30 日	1 日、7 日	8 日、30 日
12 月			12 日	

1月			25日	
2月		15日	16日	23日
3月			23日	

今年度中の委員会・会員の異動状況は以下の通り。

表 10 委員会・会員異動状況

会員区分	期首	増加	減少	3月末
正会員	88	1	1	88
賛助会員	9	1	0	10
合計	97	2	1	98

(2) 耐火構造認定の取得

新規の屋根 30 分耐火構造認定取得に向け、以下の活動を行った。

(一財)ベターリビングにおいて平成 30 年 1 月及び 2 月に性能評価試験を行い、下記の 2 仕様とも合格した。また、試験を伴わない認定として 1 仕様を申請した。

H0930W - 1 山 (GW10 kg 品) : 最大梁間 3,500 mm、裏打ち材あり及びなし仕様
断熱金具 (固定式・スライド式)

H0930W - 2 山 (GW10 kg 品) : 最大梁間 3,500 mm、裏打ち材あり及びなし仕様
断熱金具 (固定式・スライド式)

試験を伴わない認定 H1750W (GW10 kg 品) : 最大梁間 5,000 mm、裏打ち材あり及びなし仕様
スライド式断熱金具・フェライト系屋根材を付加

(3) 認定書発行管理体制の整備

大臣認定書の発行管理について、以下のシステム開発等を行った。

大臣認定書発行管理システムの開発と運用

平成 21 年 4 月から電子媒体で運用している発行管理システムに、昨年度認定取得した 2 認定『H1733:FP030RF-1877(1) (2)、H1750W (GW16 kg 品) : FP030RF-1879(1) ~ (4)』を 4 月に追加した。

認定書の発行業務

委員会の発行する認定書は、従来認定 (5 件) と二重折板認定 (3 件) を各々合本として発行し、追加認定 (12 件) は認定ごと個々に発行している。平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月までの認定書発行数は、145 通である。

(4) 広報活動

本年度は、主に会員企業を対象に認定内容並びに大臣認定書 (写し) の発行管理体制の周知に努めた。建築専門誌等を通じた広報活動も行った。

認定内容の説明会ならびに ID 取得講習会

会員企業を対象に、二重折板認定・従来認定・追加認定の内容について説明会を実施した。また同時に ID 取得のための認定書発行システムおよび発行手続きの講習会を全国 5 会場で開催した。講師は技術分科会委員が担当した。

表 11 講習会実施経過

会 場	開 催 日	出 席 者 数	ID取得者数(内数)
札 幌	H30年 2月 23日(金)	2名	
仙 台	H29年 7月 7日(金)	2名	2名
東 京	" 6月 16日(金)	12名	5名
名古屋	" 6月 23日(金)	12名	6名
大 阪	" 6月 9日(金)	12名	5名
福 岡	" 6月 30日(金)	22名	6名
合 計		62名	24名

ホームページの運営

平成 21 年 1 月から、協会ホームページと一体化して運営している。トップページの右下に断熱垂鉛鉄板委員会のバナーを配置している。

日経アーキテクチュア（日経 BP 社）への広告

同誌 2017 年 10 月号・別冊特集『美しい屋根 2017』に委員会が取得している大臣認定一覧と認定書（写し）の発行管理を紹介した。

(5) 品質の維持・向上

認定製品の品質・性能等を自主的に確認するため、以下の事業を実施した。

会員工場の技術審査

会員を対象に、委員会の管理する大臣認定に係る保有設備、社内管理状況、断熱材張り等に関する審査を会員 11 社で実施した。11 社すべてが審査に合格した。

新入会員の技術審査

新入会員 2 社を対象に、折板等成形機・裏張り設備等の保有設備、社内標準（品質管理・設備管理・苦情処理等）の整備状況に関する審査を実施した。併せて、委員会取得・管理の耐火認定内容や認定書発行管理システムに関する説明を行った。

(6) 調査

耐火構造試験等の実施の基礎資料とするため以下の調査を行った。

難燃剤規制への対策

折板の裏打材に使用されている従来難燃剤（デカブロモジフェニルエーテル）の世界的な製造・使用規制に先立ち、会員独自取得の耐火認定別添の取り扱いについて対応策をまとめた。6 月に「難燃剤規制に伴う会員の皆様の対応について（添付資料付き）」の案内文を配布した。

耐火構造認定候補の調査

次回からの屋根 30 分耐火構造認定取得希望仕様のアンケートを会員向けに実施した。

(7) その他

「構造方法等の大臣認定材料・構造等に関する製造実績調査」について

(一社)建築性能基準推進協会から、建築行政の適切な情報整備に資するためとして平成 29 年度の製造実績調査依頼があった。これについて委員会は、製造実績を把握していないため、認定書の発行件数を報告することで対応した。

他団体との交流

委員会は、断熱亜鉛鉄板に関する各種情報を得ることを目的に、主に次の団体と交流している。

- ・防火材料等関係団体協議会
- ・防火工法推進協議会

8. 広報事業

(1) 機関誌「金属屋根 施工と管理」の発行

機関誌の発行に際しては、定期的に広報委員会を開催し、その充実に努めている。機関誌は会員のほか官公庁・設計事務所・総合工事業者等にも送付している。

平成 29 年度の特集記事は次の通りである。

表 12 機関誌特集記事

号	タイトル	執筆者等
'17年4月号	2種類の屋根耐火 30分耐火構造認定を取得	断熱亜鉛鉄板委員会
5月号	定尺縦継/折板の改修工法について	日鉄住金鋼板
6月号	金属折板屋根における裏貼り断熱材の復旧	日本接着
7-8月号	LLM2017への質問とその回答	技術委員会
9月号	建材用高耐久性クロメートフリーカラー鋼板	JFE 鋼板
10月号	金属サイディングを正しく取り扱うためには	日本金属サイディング工業会
11月号	伸銅品を学ぶ(上)	日本銅センターほか
12月号	伸銅品を学ぶ(下)	日本銅センターほか
'18年1月号	積雪荷重の算定方法が変わります	技術委員会
2月号	積雪荷重の算定方法に関する「技術的助言」	技術委員会
3月号	亜鉛系めっき鋼板、塗装鋼板のクロメートフリー動向	日本鉄鋼連盟

(2) ホームページの運営

協会ホームページは、14年2月1日より正式に公開している。平成 29 年度も、ほぼ2ヶ月に1回程度のペースで見直しを行った。

29年度は3月までに、28万件を超えるアクセス数があり、開設以来のアクセス数が220万件を超えた。主な内容と更新状況は以下の通り。

表 13 ホームページ

主な内容と更新状況	新たにアップしたページ
トップページ...掲載写真を随時更新 金属屋根素材の解説...従来通り 主な金属屋根の製品紹介...全面改定 環境配慮型屋根...従来通り 屋根ふき材の構造計算...一文字葺きの耐風圧試験結果を追加 テクニカルレポート...8件の技術レポートを追加 スレート屋根改修のご提案...従来通り 講習会・試験のお知らせ...随時見直し 金属屋根工事技士制度の紹介...従来通り 工事管理報告書...従来通り 出版物案内...紹介図書の追加、修正。 統計...内容更新 施工写真集...掲載写真を追加 用語集...従来通り あの屋根・この屋根...1件の記事を追加 銅屋根クロニクル...8件の記事を追加 会員名簿...随時見直し 協会の情報公開...平成 29 年度の内容に更新	初めて学ぶ もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017 屋根と外壁のかたち

表 15 アクセス数(14/2～29/12)

	アクセス数
14/2～29/3	1,972,944
29/4～30/3	283,686
計	2,256,630

(3) 建築系工業高校への広報活動

平成 19 年 9 月号より金属屋根に対する理解促進等を図るため、全国の建築系学科を有する工業高校への機関誌の配布を行っている。

(4) 書籍等の頒布

以下の書籍等について会員及び一般向けに頒布を行った。

初めて学ぶ・もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017 鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSR2014 計算ソフト「屋根を調べる 2015」 金属屋根の施工と管理 - 改訂 4 版 - 鋼板製外壁構法標準 SSW2011 鋼板製屋根構法標準 SSR2007 素材からみる金属屋根と外壁 改訂・鋼板屋根構法マニュアル 風と金属屋根 - 改訂版 - 屋根改修工事の手引き

9. その他

(1) 国土交通大臣顕彰「優秀施工者」(建設マスター)受彰

建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事している方の中から、特に優秀な技能、技術を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をしている方を、国土交通大臣が顕彰する、平成 29 年度優秀施工者に 3 氏

が選ばれた。大会としての受彰者は59人となった。また、ジュニアマスターは6名となった。

【建設マスター】

岩澤峰之(岩澤板金工業) 内田公隆(アートルーフ工業) 玉木英晴(玉木板金工業)

【ジュニアマスター】

川崎一弘(川崎板金工業) 山崎和輝(山崎板金)

以 上